



2012年を迎えて



看護部長のあかしたな

24年を迎えて早1ヶ月が経とうとしています。

センターは今年独立法人化3年目を迎えます。新年の総長挨拶は、『次の2年間(24・25年)は、3段跳びにたとえると「ステップ」に相当する。この間にどれだけエネルギーを蓄えら

れるかで、26年度の「ジャンプ」の跳躍が決まる、その意味で重要な2年間となる。「ステップ」の時期の力を備えていただきたい』(デスクネットに全文掲載)と話されました。

22年は、独立法人化、新病院移転、電子カルテ稼働、23年は、東日本大震災、計画停電、災害支援、病院機能評価受審等々大きな出来事が続きましたので、まさに24年は、エネルギーを蓄える年といえます。

24年度看護部は、障害者自立支援法の改正に伴い、対象病棟に看護師・療養介助員を強化する準備を進めています。皆さんは、専門的知識や技術を習得し、臨床で実践

に活かし体験を集積し、職員としての誇りと自信になるものを蓄える年にしてください。例えば、精神療法やSSTなどのスキル、神経難病では、患者の日々のケアを通してQOL向上や心理ケア等に目標を持って取り組んでください。職員一人一人は大きな底力を持っています。当センターは様々な研修の機会が多くTMCの研究支援もありますので、活用しましょう。

熊地副師長さんが当センター第1号の専門看護師に合格しました。4月から活動を初めてもらう予定ですのでよろしくお願ひします。更に5月には認定看護師試験の受験者もいますので、専門領域の看護師が充実し、院内サポート体制が整っていきます。

昨年11月12月と低迷していた患者数が、1月になり400名を越す日が多くなりなり、皆さんのおかげと感謝いたします。

今年も皆さんとともに知恵と力を合わせて課題に取り組みよい年にしていきたいと思います。

(看護部長 小宅比佐子)

精神看護専門看護師当院第1号 誕生！



みなさん、こんにちは。

いつも看護学生の実習などでお世話になっております、臨床教員の熊地です。

とうとう雪も本格的に降り(とはいえ

何故だか、ねずみおとこと一緒に数cmですが…)、寒さも一段と厳しくなってきましたね。

毎朝布団から出るのに数分悩み、凍りついた車と格闘しています。

さて、今回この場をお借りして、昨年12月に日本看護協会から、精神看護専門看護師(CNS)の認定を受けましたことをご報告させていただきたいと思ひます。CNSとしての本格的活動は4月から…となりますが、“はたしてCNSとはなんぞや?”と疑問をもたれる方もいらっしゃるかと思ひますので、ほんの

少しご紹介させていただきます。

CNSとは、Certified Nurse Specialistの略で、特定の専門看護分野において、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するために、直接ケア、相談、調整、倫理調整、教育、研究の6つの役割を担う看護師をいいます。

たとえば…「患者さんやご家族のこともっと理解したい」、「自分のやっているケアを見直したい」、「ケアに行き詰まりを感じている」「新しい情報が知りたい」「研究を始めることに…」「人間関係、キャリアアップで悩んでいる」などなど…そんなときに、CNSを活用してもらえたらと思ひます。要は、なんでも相談窓口…と思ってもらえたらよいでしょうか。

まずは地道に、みなさんに活用していただけるように、宣伝活動に勤しみたいと思ひます。

よろしくお願ひいたします。

(臨床教員 熊地美枝)



職場 ・ 新任看護師長紹介

デ イ ケ ア



10月からデイケア外来師長に昇任した大迫充江です。

デイケアで大切にしていることは、デイケアメンバーもスタッフも、それぞれがその人らしく、なりたい自分を目指していくリカバリーの旅を楽しむことです。

デイケアでは、多職種チームで就労支援活動等の院外へのアウトリーチとともに、入院中のインリーチも少しずつ開始しています。

精神疾患をもつ方の入院から退院後の地域生活を支えていくために、地域精神科モデル医療センターとして、新しい活動にチャレンジしていきます。

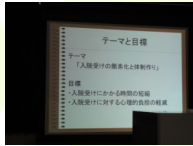
先日の大雪も、デイケアからすてきな景色にみえます。また、昨年末にデイケア前に、ビオラとチューリップを植えました。ビオラは、寒い中、花を咲かせています。チューリップは、これから芽を出してくると思います。今後の成長していく姿を見守り、楽しんでください。

(デイケア看護師長 大迫充江)

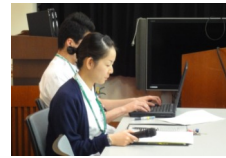


QC活動発表会 ～業務委員会～

平成23年12月8日(木) 13時30分～16時 コスモホール



病棟	発表者	演題
2南	葛西 陽子	療養生活を安全・快適に過ごすために
2北	丹 由紀子	治療(吸着・血漿交換)に対する不安軽減への取り組み
3南	島田 亜紀子	入院時より退院に向けた準備を計画的に行い、退院当日に待ち時間なく患者が退院できるようにする
3北	後藤 広行	医師との連帯強化による医療の質の改善
4南	原 舞子	入院受けの簡素化と体制作り
4北	佐藤 英恵	定期的な他職種参加型カンファレンスを行おう
5南	笠松 理恵子	安全を考えた5S活動
5北	玉浦 辰生	「C・C定例実施による病棟の活性化
6	本橋 憲一	ポジショニング
8	竹村 ちひろ	QC活動を通して病棟全体のゾーニングの定着を目指す～他職種と共通認識の下での取り組み～
9	楡井 俊史	カルテをまとめるにあたって～院内電子カルテに紙カルテ、MOMシステムの役割をできるだけ移行することを目指して～
手術室	落合 友美	業務改善 在庫管理を円滑に行い、不動態在庫を減らす
外来	佐川 香織	院内の案内表示等の改善



司会・進行は、4南熊田副師長・4北本田看護師



病棟師長・副師長より、取り組み効果や苦労話など、発表後にコメント



発表者は、待っている間もドキドキ...



雑誌投稿しました！



当院の取材にきてくれた精神看護編集者 米沢さん

「転倒しやすいのはどんな人？～精神科特有アセスメントシートから分析～」若手研究指導を受けまとめた研究が、医学書院「精神看護 1月号」に掲載されました。協力いただいた多くの方にあらためて感謝します。(若手研究 伊藤班)